

弱者と呼ばれてきたけれど・・・

私は児童心理カウンセラーというお仕事をしている傍ら、精神疾患を抱え、精神療法を必要とした大学生から小学生の学生に対する自発性を育むことを目的とし、その上で「自立性」と「自立性」を育み、社会復帰へ向けたソーシャル・スキル・トレーニングとしての「子ども討論会」という活動を2015年度から行っておりまして、今回、その子らとの関わり合いの中で、私が彼ら彼女らに対して感心した去年の2月の討論会でのエピソードについて書かせて頂こうかと思えます。

「子ども討論会」は月に一度、「大学生と高校生の部」「中学生と小学生の部」の二部に分け、それぞれ月毎に同じテーマを決めて話し合い、私は児童心理学の研究として、その様子を見させて頂きながら講義をしたり、フィールドワークをしたりしておりまして、これから書く日は、コロナ禍でしばしばメディアで取り上げられた「弱者」というワードについて、学生らに考えて頂いておりました。

このテーマを選んだ理由には、彼ら彼女ら自身が、世界的にはその部類に入ると、認識していることや、その数週間前に、統合失調症のクライアントさんの付き添いで、某市役所内にある相談窓口で相談をした際に、その担当してくれた方から、「あなたたちみたいな弱者は、人より劣っているから、尚更気を付けないといけない。」と叱られ、クライアントさんが「でも、相談してもなかなか時間をとっていただけませんか？」と質問すると、「あなたたちみたいな人に割くメリットがあると思いますか？どれくらいの方がここに来るか分かっているでしょ？」と、怒られる姿を見て、私は殊更、世間がいう「弱者」という言葉に関して、考えなければいけないと思ったからこそ、「子ども討論会」のテーマとしました。そして、彼ら彼女らにこの言葉について考えてほしいと思い、自らが世間的にそういう目で見られていると感じているならば、しっかりと向き合わないといけないことでもあると、感じたのです。

二部共に考えて頂いたのですが、両方を乗せると長くなるので、今回は「中学生と小学生の部」での内容を書かせて頂きます。

議論は最初、二部共、「障がいがある者や高齢者など含め、自らを『弱者』と呼ばせる社会とは何か？」ということから始まりました。この「弱者」というワードは、いじめや差別に繋がるワードでありますから、最初は嫌そうな顔をする子もいました。

と言いますのも、参加した子の中には、貧困家庭をからかわれ、「生活困窮者＝弱者」だと、罵られたことで、PTSDやHSP(HSC)のため、学校に行けずにいる子など、様々な理由から「弱者」に対するトラウマを抱えている子がいますから、このテーマが重く自分にしかかっていたように感じます。ですが、その月のリーダーがその様子を見ながら、「あのよ、「弱者」って、難しいやん。だから、「強者」から考えようや。」と、提案したことで、空気が変わり、彼ら彼女らは、「強者」について考えたのです。そして「強者とは、偶像。強くありたいと思う心から強く作られたモノだ。」という子がいたり、「それじゃ、あくまで

虚栄というのか、願望でしかないよ。」と反論したり、「いやいや、それって、どっちも虚像で実態がなさすぎじゃない。」と、二つを否定する子がいて、最終的には、「強いとは何か？」ということについて話し合いました。そんな中、HSP(HSC)の子がボソッと「強者って幸せ者なのかな？」と呟き、「僕は皆よりも弱者だと思う。けど、家族がいるから幸せで、どうして大人は決めつけて区別するのかな？自分が幸せならそれでいいのに、周りからは弱い人という認識を受けるのが、辛い…。どうしてそれを大人はわかってくれないのか？僕はそれがわからない強者にはなれなくていい。」と言ったのです。

私は言葉を失くしたわけで、その子の言葉を聴いて、他の子たちが「私はいじめられて学校にいけないけど、こうして自分を変えようとしている。弱くないと思っているし、むしろ強くあろうと頑張っているから、強者だって言ってほしい。」や「僕は障がいがあるけど、そう思ってほしくないし、そう思っていきたくない。」や「私は強者になりたい。強者だと言わせたい。だってバカにされたくないもん。リストカットとか自殺未遂とか色々親や先生に迷惑かけているけど、心配させてる分賢くなって自分の不安とか悩みとか言える人になりたい。そして謝れる人になりたい。」など、自分の想いを吐き出し、その上で、差別される、区別される対象ではないと訴えていました。

なんといいいますか、彼ら彼女らと関わって数年が過ぎましたが、相手の意見に従う子や自分の気持ちを吐き出せない子、抑圧されて育った子、自分の存在価値を下げられた子らが、自分なりに考え、「自分はこう思う。」といえるまでに成長したことが嬉しいわけで、彼ら彼女らがこのテーマで導き出した解が「自分が『強者』だと思っている人ほど、相手の良さが見えず、劣っている存在だと決めつけるため、本当の意味での「弱者」で反対に、自分が「弱者」だと思いながらも、それに負けずに前に進もうと行動している人こそ、本当の『強者』だと思う。」と、私に発表してくれました。

私は介護職の経験もあり、今でも身体障がいの方や、神経発達の方たちと関わり合いながら、心理カウンセラーとして、精神疾患や様々な悩みを抱える方々と向き合い、共に考え、共に良くしていけるように、ケア等をさせて頂く中で、人の強さ、美しさに触れているようにも感じられ、大変な思いや、意思疎通における理解の難しさなども経験しておりますが、それでもなお、彼ら彼女らと関われることに感謝している今日この頃です。